4. 場合の数と確率 | 3. 確率 | 3. 独立な試行 | 2. 反復試行

<u>インデックスに戻る</u>

4. 場合の数と確率

- 4-3. 確率
 - 4-3-3. 独立な試行
 - 4-3-3-2. 反復試行

「1個のサイコロを投げる」は試行とみなすことができる。1個のサイコロを繰り返し投げるとき、それは同じ試行の繰り返しであり、各回の試行の結果は他の回の試行の結果に影響を与えない。

同じ条件のもとで1つの試行を繰り返すとき、これらの試行は独立である。このような独立な試行の繰り返しを反復試行という。

4. 場合の数と確率 | 3. 確率 | 3. 独立な試行 | 2. 反復試行

(例)

1 個のサイコロを続けて 4 回投げるとき、4 回のうち 1 の目がちょうど 2 回出る場合は、 1 が出ることを 1、1 以外の目が出ることを \times で表せば

の6通りである。これは、4回のうちどの2回に1が出るかに着目して

$$_{4}C_{2} = \frac{4 \cdot 3}{2 \cdot 1} = 6$$

と求めることができる。このうちで、 $(11\times \times)$ が起こる、すなわち、1回目と2回目に1が出て3回目と4回目に1以外の目が出る確率は

$$\frac{1}{6} \times \frac{1}{6} \times \left(1 - \frac{1}{6}\right) \times \left(1 - \frac{1}{6}\right) = \frac{1}{6} \times \frac{1}{6} \times \frac{5}{6} \times \frac{5}{6} = \left(\frac{1}{6}\right)^2 \left(\frac{5}{6}\right)^2$$

である。(1×1×) についても調べると

$$\frac{1}{6} \times \left(1 - \frac{1}{6}\right) \times \frac{1}{6} \times \left(1 - \frac{1}{6}\right) = \frac{1}{6} \times \frac{5}{6} \times \frac{1}{6} \times \frac{5}{6} = \left(\frac{1}{6}\right)^2 \left(\frac{5}{6}\right)^2$$

であるが、これは(11××)の確率と同じである。他の場合も同じであるから、

$$\left(\frac{1}{6}\right)^{2} \left(\frac{5}{6}\right)^{2} + \left(\frac{1}{6}\right)^{2} \left(\frac{5}{6}\right)^{2} + \left(\frac{$$

$$=6\left(\frac{1}{6}\right)^2\left(\frac{5}{6}\right)^2$$

$$=\frac{25}{216}$$

反復試行の確率について、一般に次のことが成り立つ。

反復試行の確率

1回の試行で事象 E が起こる確率を p とすると、余事

象 \overline{E} が起こる確率は1-pである。この試行をn回繰り

返して行うとき、Eがちょうどr回起こる確率は

$$_{n}C_{r}p^{r}(1-p)^{n-r}$$

4. 場合の数と確率 | 3. 確率 | 3. 独立な試行 | 2. 反復試行

(例)

1枚のコインを3回投げるとき、表の出る回数が2回である確率は

$$_{3}C_{2}\left(\frac{1}{2}\right)^{2}\left(\frac{1}{2}\right)^{1}=\frac{3}{8}$$

(例)

2枚のコインを投げるとき、2枚とも表である確率は

$$\frac{1}{2} \times \frac{1}{2} = \frac{1}{4}$$

である。よって、2 枚のコインを 3 回続けて投げるとき、両方とも表が出る回数が 2 回である確率は

$$_{3}C_{2}\left(\frac{1}{4}\right)^{2}\left(1-\frac{1}{4}\right)^{1}=\frac{9}{64}$$

<u>インデックスに戻る</u>